

学校図書館における読書センターとしての活用（研修会報告）

本研究会では、10月9日に「学校図書館における読書センターとしての利用」をテーマに研修会を行いました。研修会では、「読書センターとしての利用」に関する取組と事例を市内各校より発表していただきました。また、各校からの取組について質疑応答をした後、尾張旭市立図書館の図書館司書のお二人による読書環境をつくるためのワークショップを行いました。



【各校から出た読書センターとしての活用例】

- 読書の環境づくりを中心に行っている。
- 読書ビンゴや縦割り活動を活用し、読書に興味を持たせる取組をしている。
- 読書タイムや読み聞かせを行っている。
- 図書委員会による読書ムービーの作成をしている。
- 多読賞の児童を紹介している。
- 外部のボランティア団体を活用して、読書活動を活性化させている。
- 6年生の図書委員に購入本を選んでもらい、その本の紹介ポスターを作らせている。
- 図書分類ビンゴゲームに取り組みせ、様々な分野の本に触れあう機会をもった。
- 季節の本を置いたり、仲良くなりたい本の中のキャラクターを紹介させたりして、来室の機会をつくった。
- 国語のパフォーマンス課題で問題を取り上げ、資料として文献引用をさせながら意見文を書かせた。
- オンラインアンケートを用いて、図書委員による図書意識調査を全校実施した。



学校図書館では、子どもの想像力を培い、学習に対する興味・関心等呼び起こし、豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導の場である「読書センター」機能を果たしています。一方で、子どもたちの娯楽選択肢が読書以外に求められている現状もあります。そこで、学校図書館の環境整備を行い、子どもの「生活の場」のひとつに学校図書館が選択される必要があるという意見が出ました。

発表の後に行われたワークショップでは、学校図書館でもできそうな本の見せ方について学びました。本市では公立図書館と学校図書館の連携を心がけており、図書館司書の方に知恵をお借りすることも多いです。先生たちのおすすめの本と書いたカードを入れて福袋の仕様にして見せる方法、英字新聞をつかって包装して見せる方法、購入時に付いてくる本の帯をビニールカップに丸めて入れて帯 CAFE として見せる方法など、いろいろな方法を学びました。学校図書館が子どもたちの居場所になる工夫をしながら、子どもたちの手にまず本が触れられるような取り組みを今後も続けていこうと思います。